

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	16	大学等名	富山短期大学
テーマ	テーマⅡ 学修成果の可視化		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、学修成果の把握と可視化、授業・学修・教育課程の改善を行うための仕組み、第三者評価を PDCA サイクルに反映させる仕組み、教職協働による教育改善・改革の機動的な推進体制の推進など、大学改革を加速化させるための仕組み作りが整備されている。また、「高大接続」実質化のための個別指導の工夫、「学生アンケート」での学生の自己評価結果による学修成果の可視化を行っており、入口（入学）から出口（卒業）まで質保証を伴った大学教育を実現するための総合的な取組が行われていると評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、テーマ別評価の観点である、成績評価の平準化と厳格化、学修成果の把握、教育課程の体系化、成果を踏まえた取組の改善、学生の授業外学修時間については、いずれも適切に構築された事業体制の下で、着実に取組が進捗していると評価できる。なお、必須指標である「学生の授業外学修時間」の実績値については、令和元年度においても目標値に達していないものの、事業開始年度の実績値と比して増加傾向にはあることから、今後の事業継続の中で目標値を達成することが期待される。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長の下に設置されている全学的な「自己・点検評価委員会」において、「アクションプラン」が作成され、毎年度末、その実施・進捗状況を各学科・部局・委員会が点検し、必要な見直しが行われた上で、その結果を「アクションプラン・レビュー」にまとめている。さらに、「アクションプラン・レビュー」は、外部有識者から構成される「外部評価委員会」に諮られ、そこでの議論を PDCA サイクルに反映させていることから、適切な評価体制が構築されていると評価できる。また、小規模短期大学という当該大学の特徴を生かした学内における事業体制の整備、学外組織への加盟による IR 等の向上、全学的な FD・SD 体制により、補助期間終了後の継続的な事業実施を見込むことができる。

事業成果の普及については、Web 上での PR、パンフレット・報告書の作成、研修会等での取組紹介等を通じて、本事業における取組の普及に努めているものの、独自のパンフレット作成は平成 26 年度のみであり、シンポジウムの積極的な開催も確認できないことから、その取組が十分であったとは言い難い。小規模短期大学という特徴を生かした取組とその成果を、更に積極的かつ効果的な方法で普及されることが期待される。